

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 6/Jan/2020/vol.571

伝統と革新の日本の農業 冬に実るホワイトアスパラ「白い果実」(岩手県 馬場園芸) White asparagus, produced in Japan

ヨーロッパでアスパラといえば、それは当たり前のようにホワイトアスパラを指します。4月~6月ぐらいが旬で、この季節はこのレストランでも待ち焦がれていた人々が、ホワイトアスパラを求めて溢れかえります。近年は日本でも生産する圃場は増えてまいりましたが、まだその規模も小さく、早くても2月からの佐賀産がスタートです。しかし近年、独特の栽培方法で、なんと従来にはない12月からの供給という驚くべきタイミング、その上芳醇で魅惑的に甘いホワイトアスパラの生産を可能とした農家があります。それが、岩手県の馬場園芸です。もともとグリーンアスパラの生産地として有名であった地の利とノウハウを生かして、独自の方法でダイナミックにそして愛情をこめて栽培しております。元となる株は、春から秋にかけて米ぬかや魚粉などを発酵させたアミノ酸を豊富に含んだ肥料を含んだ土により、露地でじっくり栄養をため込ませ、11月初旬に掘り上げ、遮光ハウスの土に今までのアスパラ栽培では考えられないほどぎっしりと株を埋め込んでゆき、生育させてまいります。これは従来の常識も打ち破ったスタイルです。雪を連想する優しい色合いの美味しい日本のホワイトアスパラ「白い果実」を冬のメニューで楽しめるのもそう遠くはないでしょう。日本の農業においても「当たり前」からの脱皮や、今までにない発想が発展を遂げてゆく時代に差し掛かっているのかもしれないかもしれません。本年、日本はオリンピックイヤーでもあり、たくさんの挑戦が行われます。こうした意欲溢れた農家のチャレンジもまた、一つの金字塔となって後世に継がれてゆく可能性を秘めているようです。